

じいじから学んだこと

金屋中・2 百瀬 愛未

ある日の朝

父から悲しい知らせを聞いた

じいじが亡くなったと

私はその言葉を信じたくなかった

帰宅後すぐにじいじのもとへ向かった

すごく切ない気持ちになった

同時にすごく後悔した

ずっと二階で寝込んでいたじいじ

毎週末じいじの家に行っていたのに

私はじいじと話すことができなかった

じいじをみんなで囲み

般若心経を唱えた

じいじの顔を見ていると

自然と涙が出た

もつと話をしたかったのに

もつと話を聞いてほしかったのに

何一つすることができなかった

そんな自分が嫌だった

お通夜が始まった

みんな下を向いていた

今までに一度も経験したことがない景色

私は不思議な気持ちになった

お通夜が行われたその日の夜

葬儀場にいとこたちと泊まり

じいじと最後の夜を過ごした

寂しい思いでいっぱいだったけど

じいじの前で見せられなかった笑った顔

最後の夜はたくさん笑った

私はじいじの笑った顔は

見たことがなかった

だからお話をしたり

私の笑った顔を見て

笑ってほしかった

笑った顔が見たかった

棺の中で眠るじいじ

私はそばにいた

なにもしてあげられなかったから

そばにいてあげれば寂しくないから

これが

私が最後にしてあげられることだった

じいじから学んだこと

失って自分を追い込む

それは後悔が残っているから

悔いがないように生きる人生

じいじ

教えてくれてありがとう